

【特集】— 平成31年成人式 —

ハタチの門出

平成最後の年に20歳という節目を迎えた新成人。
新たな決意と自覚を胸に、大人としての第一歩を踏み出しました。



1 色鮮やかな晴れ着に身を包んだ新成人 2 10 11 式典の様子
3 式典の準備や運営を支えた実行委員の皆さん 4 佐沼小学校合唱隊が市民歌を斉唱 5 着付けボランティアの皆さんがお直し 6 登米高生徒がボランティアで式典をお手伝い 7 「誓いの言葉」を述べる佐々木龍一さん(左)と熊谷麗さん(右) 8 スマホで友人らと写真撮影 9 市長から記念品を受け取る新成人代表の菅原憂哉さん=石越町第十=



穏やかな天気恵まれ、20歳の門出を祝うかのように広がった青空。「平成31年登米市成人式」が1月13日、登米総合体育館で開かれました。今年の新成人は1998(平成10)年4月2日(99(平成11)年4月1日生まれ)の821人で昨年より11人増加。式典には、675人(男344人、女331人)が出席しました。

正午過ぎ、会場はスーツやはかま、色鮮やかな晴れ着に身を包んだ新成人であふれ、華やかな雰囲気。旧友との再会を喜び合い、近況を報告したり、写真を撮影したりする姿が会場の至る所で見られました。

午後1時、式典が開始。熊谷盛廣市長が「時代を切り開くのは、若者の柔軟で斬新な発想と行動力、そして情熱による挑戦です。高い志と情熱を持って輝かしい未来へ前進し、若い力を存分に発揮してください」と式辞を述べました。

新成人を代表して佐々木龍一さん(中田町本町畑中)と熊谷麗さん(中田町新町)が「地域を魅力ある街にして、後世に引き継ぐことが私たちの使命。これまで以上に行動に責任を持ち、周りの人たちに対する感謝の気持ちを忘れず、社会に一層貢献できるように、躍進することを誓います」と誓いの言葉を述べ、決意を新たにしました。

広い視野を持ち
成長していきたい

佐々木 瑞菜さん
南方町大袋



成人式を迎えるまで、さまざまな出来事がありました。小学生の頃は、スポーツ少年団を通して、礼儀や物事に対する考え方などを学びました。中学校では、部活動や生徒会活動で、人との接し方や自分の考えを生かす方法を学びました。高校は市外だったため、一度登米市を離れたことで、地元の大切さに気付くことができました。

楽しいことだけでなく、心が折れてしまつような経験もたくさんしました。しかし、これから、さらに成長するため、今まで以上に視野を広く持ち、仕事や生活に生かせる多くの知識を得たいです。また、多面的に物事を把握できるようにするために、いろいろな地域で交流や体験をして、自分に磨きをかけていきたいです。

そして、これまで多くの人に支えられた分を、少しずつ返せるよう精進していきたいと思えます。

20歳の主張

新成人を代表し2人の「20歳の主張」(要約)を紹介します

これからの生き方で
感謝の気持ちを証明

細川 凌さん
米山町中埜



私は、大事な人たちを守りたいという思いから、消防士を目指し、夢を叶えることができました。

消防士になることができ、いざという時に役に立つわけではなく、登米市で活躍することを強く望みました。それは、これまで生まれ育った土地であり、たかさんの思い入れがあったからです。また、お世話になった人たちに恩返しするためにも、登米市での就職にこだわりました。

今は経験不足で分からないことが多く、まだまだ半人前ですが、災害現場での活動では一人の消防士として活躍が期待されます。私はどのような災害現場に行っても不安な顔をせず、助けを求め人を少しでも安心させられる消防士になるよう、日々努力を積み重ねていきたいです。

最後に、私をここまで大きく成長させてくれた家族や支えていただいた皆さんに感謝を伝えたいです。ありがとうございました。これからも「感謝の気持ち」を証明していきたいです。